

列島追跡

約1300年の歴史がある長良川の鵜飼(うい)に、かつてのにぎわいを取り戻そうと、岐阜市は外国人観光客向けサービス向上に乗りだした。毎年5月から10月まで行われる鵜飼いは同市の観光の目玉で、夜間に行われるため宿泊需要にも直結する。ただここ数年は観覧船乗船客は低迷。同じ県内で外国人の人気観光地になっている高山市の刺激を受け、官民あがての外国人誘致作戦が始まった。

岐阜市、鵜飼いで外国人誘客



岐阜市の鵜飼いで観覧客数は低迷が続く

船事務所で、春から英語で外国人観光客の案内を担当している元教員の田口誠さん(61)は笑顔を見せる。鵜飼いを運営する岐阜市は、外国人観光客向けに英語の案内を強化している。田口さんのような英語の堪能な人材を採用したほか、

よつにした。鵜飼いは海外ではあまり知られていないため「外国人観光客が、撮った写真や動画を世界に発信することにも期待している」(林素生・事務所長)という。岐阜市は老舗旅館だった建物を外国人向けに安く宿泊できる施設に改装する計画も進めている。戦後まもなく建設され、皇室も宿泊予定だ。

「名古屋のホテルから米国人が鵜飼いを見たいと電話してきた。時間や料金などを説明したら、5人組がやってきた」。長良川の河畔にある岐阜市の鵜飼観覧

「昔の鵜飼いはもっとにぎやかだったのに」。岐阜市内でよく聞く市民の嘆きだ。1965〜93年には、観覧船の乗船者は年間20万人を超えており、ピークの73年は33万7千人に達した。だが10年以降は10万人台に落ち込んでいる。こうした行政の動きに民間も呼応し始めた。長良川流域の地域づくりを支援するNPO法人、ORGAN(同市)は6月1日、市内の築120年の古民家を使

にぎわい復活、官民連携

「名古屋のホテルから米国人が鵜飼いを見たいと電話してきた。時間や料金などを説明したら、5人組がやってきた」。長良川の河畔にある岐阜市の鵜飼観覧は無料WiFiを使う度に耐震改装などを進める(岐阜支局長 小山隆司)